

課題別委員会「人口縮小社会における問題解決のための検討委員会」(第25期第2回)
議事要旨

日時： 2021年7月22日(木) 16時～18時15分

会場： Zoom 会議

出席者(敬称略)

委員：白波瀬佐和子、馬奈木俊介、荒井秀典、水口雅、望月真弓、筑本知子、浅川智恵子、石井クンツ昌子、伊藤公雄、遠藤薫(委員長)、遠藤求、大沢真理、落合恵美子、金子隆一(副委員長)、斎尾直子、武石恵美子(幹事)、石原理(幹事)

事務局：薦田有紀子、小山堯

議事

1 前回議事録の承認

資料1-1および1-2を承認した。引き続き、議事録詳細版の公表について渡辺委員から提案があったことについて、委員長から報告があり、協議の結果、A4で2ページ程度のより詳細な議事録を公開することになった。

2 幹事追加指名と承認

石原理特任連携会員を幹事として追加指名することが提案され承認された。

3 前期委員会の活動報告

資料3及び4(前期の「提言」および「学術フォーラム」ポスター)に基づいて、委員長から前期委員会の活動について報告があった。

4 委員自己紹介

第24期委員による簡単な自己紹介に引き続き、第25期からの新任委員により自己紹介があった。

5 今期の活動について

委員長からコロナ感染症パンデミックが背景にある人口縮小社会について、「社会資本、医療、テクノロジー、地域」と「子ども、産み育てる、高齢者、ジェンダー、障害」の視点から多様性を前提に今期活動を行うことが提案された。期内に公開シンポジウムを開催し、最終的に「提言」を提出することを目標とする。

6 Free discussion

・コロナ感染症パンデミックが、最近の婚姻数、出生数の減少に直接的影響を及ぼしたのか

どうかについての議論が行われた。

・「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書」について、簡単に紹介し、次回以後の本委員会において報告いただくように要請があった。

・女性に厳しい労働市場、ひとり親の失業増加、予期せぬ妊娠の増加、自殺者の増加などについて言及があった。

・ケアにあたる人、自宅療養の問題、男性のケア力、ケアされる男性の男性性、若年者によるケアについての指摘があった。

・地域包括ケア、高齢者の定義変更、Age free society が話題とされた

・移民問題の重要性について、複数委員から指摘があった。

・保育園・小学校が近年「迷惑施設」とされ、高齢者施設への反対運動が沈静化したとの指摘があった。

・人口減少を止められるとしても、技術的に時間がかかり早くとも 2080-2090 年代となることが示された

・経済・社会不安と出生率の関連は、短期的な政策変更の影響のみではなく、長期的な人口置換水準を考慮すべきことが説明された。

スウェーデン、フランス、ドイツにおける出生率変化の具体的事例について、議論が行われた。各国の家族政策、労働政策、ジェンダー平等の実現などとの関係が指摘された。

・多様な視点からの、さまざまなプレーヤーによる、さまざまな連携が必要であることを提言すべきであるとの指摘があった。

・コロナ感染症パンデミックによる世代間対立、高齢化社会を踏まえ、むしろ若年者優遇の政策的配慮の可能性が指摘された。

・ケアの担い手が問題となっているが、老化、不慮の事故、疾病等で衰えたあるいは失った体の機能を科学技術で補い自立して生活や仕事ができるようにすることも必要、またそうなることを未然に防ぐような技術開発もできるのではないかとの意見があった。

・本委員会への担当大臣など政府関係者出席可能性があるかとの質問があり、事務局から委員会への前例はないが、学術フォーラムなどに副大臣などが来賓挨拶などのため出席した例はあるとの回答があった。

7 事務局からの要請

新委員を含め、メールアドレスの共有について要請があり、出席委員全員の賛同が得られた。

以上